

# 薬剤師意識調査アンケート結果から見える男女共同参画委員会

## の取組み

佐賀県薬剤師会男女共同参画委員会 原 瑞絵

2015年日本女性薬剤師会による薬剤師の将来像と認定薬剤師について、アンケート調査があり、当委員会も実施し女性薬剤師の体系的な教育と認定薬剤師輩出のための方向性を検証した。7年後となる本年に同じ設問にてアンケート調査を実施し、認定薬剤師・専門薬剤師等に関する意識の変化を比較検証してみた。

2015年、2022年とアンケート回答は年代、男女の各比率はほぼ同じだった。7年の経過で薬局を取り巻く環境は激変しているが、「今の仕事を続けたい」「満足している」が多く占めていることに変化は見られなかった。以前と比較して本人の環境も出産や介護、配偶者の転勤等で中断、転職を余儀なくされる可能性は多くあると思われる。そのような場面では薬剤師としてのスキルが今後ますます必要になってくるのではないかと。しかし、認定薬剤師取得者は多いが専門薬剤師は少なく、今後取得希望も少ない。制度に対する要望からも自己研鑽だけでなくその資格が具体的な評価に繋がっていればとの多数の意見があった。認定・専門薬剤師が付加価値となるのか注目するところである。認定・専門薬剤師取得に要望として申請・契約手続きの簡素化の意見が一番多く、4月からPECSが始まり、更に女性薬剤師にとって取得しにくいと感じる受講者が増加するのではないかと危惧している。この点に関しては薬剤師会で認定取得に関して支援していくべきと感じる。

働き方には概ね満足し、継続希望と全体的に働く環境は悪くないと思っている方が多い。6月3日に「女性版骨太の方針 2022」決定され、男性の育児休業取得の推進など、男性が子育てに参画しやすくなるための環境整備に取り組み、女性役員の登用促進等が発表された。その中で、障害のある子どもを育てている為に自己研鑽が難しいとの声があった。今後、当委員会では障害のあるキッズへのフォローも視点のなかに入れる。

若干名だが、性別の選択肢にて「回答しない」を選択された方がいた。ダイバーシティーの取り組みにおいて、今回の選択肢のように、すべての方に配慮された社会の実現がその本質ではないかと考える。佐賀県は、トランスジェンダーや前立腺がん患者など必要とされている方のために、県が所有する施設の男子トイレ個室にサンタリーボックスを設置する考えであることが報道され、当薬剤師会館において早速、設置することにし、多様性を認め合い、お互いに尊重し合い、人に優しい環境づくりができればと思う。